

土浦平和の会

ニュースNO・44 平成7年5月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

a回りa@白'97年総会 j6・終わりました

土浦平和の会総会は、予定通り4月20日午後1中地区公民館においておこなわれ、'96年度経過報告、'97年度運動方針会計報告が原案どおり承認されました。昨年の取り組みの中で特筆される取り組みは、沖縄連帯の集会・意見広告・署名運動、原水禁大会への代表派遣、基地調査などがあつたが、いばらきコープ平和グループポッポの会との協力関係が深められたことや、高校生との対話が進んだことがあげられています。運動方針の中では会員の交流を進めるために、花見などの行事を計画すること、高校生との交流をもっと進めること、新婦人平和部会で行っている「アピール署名」と協力してこれを推進したらどうか、ポッポの会が敗戦の日を記念して計画している「すいとんを食べる会」なども共同で行ったらどうかなど、積極的な意見が出されました。役員改選によってつぎの10名の理事と2名の監査が選出されました。

新役員 理事 井上仁志 大滝誠香 取有紀 久保田栄吉 齊藤房雄 齊藤訓子 関口光男 中島義夫

福田勝夫 山口雪雄 監査 久松一枝 船津 寛 (50音順)

代表理事、会計担当は次回理事会で互選されます。

基地の中のオキナ「PART 2

山口雪雄

沖縄から帰って、早くも1ヶ月が過ぎた。沖縄の基地をめぐるその後の経緯は、皆さんご承知の通りである。消費税5%増税の後に、沖縄県民の土地を半永久的に取り上げる米軍用地特別措置法の改悪、そしていま、医療制度改悪が審議の期間も殆ど無しに、アット言う間に国会を通過した。異常な大政翼賛体制の下にという表現では説明しきれない超異常さである。

3日目の3月27日に金武町、県道104号線越え実弾射撃演習場を沖縄県平和委大城保英氏の案内で視察。この日は、直前に演習が中止になって、実際の砲撃演習の現場は見られなかったが、生活道路である県道のあちこちには、砲弾の薬きょうが散乱していて、演習のすさまじさを知ることができた。演習時には、この県道を封鎖して、105ミリ、155ミリ榴弾砲を発射し、県道104号線越えに約5キロ離れた恩納岳、金武岳の山中に実弾を撃ち込むのである。この演習により、地元住民は生活道路を奪われるだけでなく、通学の学童は生命の安全を脅かされ、自然環境、教育環境は根幹から破壊されている。

この日、県収用委員会の公開審理が終了した後、調査団一行は池原秀明さんや島袋善裕さんなど反戦地主、弁護士の方々と近くの「嘉手納そば」で懇談した。沖縄市知花でバラ園を営む島袋善裕さんは、反戦平和のウチリピー（火種）としてあまりにも有名であるが、その闘い方は創意に満ちていて防衛施設庁もたじたじだという。この日も、明るい笑顔で淡々と日頃の闘いと心情を語ってくれた。飛び入りで参加した北谷町の元小学校教諭の高宮城 清さんは、闘いの中で作り、かって土地闘争で活用されたという自作の「軍事即決裁判」の詩を朗読してくれたのがとても感動的だった。最近出版されたあけぼの出版社の「反戦地主の源流を訪ねて」に載録されているのでぜひ参照してほしい。

今回は4回目の沖縄であったが、沖縄の空と海、自然があまりにも美しく歴史を刻んだ文化が素晴らしいだけに、基地による環境破壊には心の底から怒りが湧いてくる。前回、沖縄と本土の温度差について触れたが、百聞は一見にしかず、みなさんもぜひ基地の中のオキナワ、基地による環境破壊、複合汚染の実態、人権無視、憲法蹂躪の実状を人間のくらしの視点から、ご自分の目で確かめてほしいものです。

最後になりましたが、平和の会や多くの皆さまから寄せられた物心両面のご支援に厚くお礼申し上げます。

行事ごよみ

- 4月27日 県平和委理事会(石岡)
- 5月 3日 憲法施行50年記念集会(市民会館)
- 5月 6日 県平和委常任理事会(水戸)
- 5月11日 第5福竜丸・横田基地・北富士
- ~12日 東富士視察 平和の旅
- 5月18日 県平和委員会'97大会(石岡)
- 5月23日 平和の会理事会(1中地区公民館)
- 6月15日 竜ヶ崎アピール署名支援

竜ヶ崎で? 第一命UQ統一行動

6月15日(日)午前・午後

竜ヶ崎市で「とロシマ・ナガスアピール署名」があと2000に迫っています。11彖れ政ばかりの竜ヶ崎平和の会を支援する蛸蛸4に、全国最下佐にある県り署名数管急速に引き上げるためにみんなで参加して、運動の径験習學び彖よよう。